

FUR0015-US

#5
PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of:

Hiroshi TOKUMARU et al.

Serial No. 09/821,030

Art Unit: 2681

Filed: March 30, 2001

Examiner: Unknown

For: CONTENT DISTRIBUTION SYSTEM

Assistant Commissioner of Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM TO PRIORITY UNDER 35 U.S.C. § 119

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior applications filed in the following foreign country is hereby requested and the right of the priority provided under 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed:

Japanese Patent Appln. No. 2000-096814 filed March 31, 2000
Japanese Patent Appln. No. 2000-096843 filed March 31, 2000

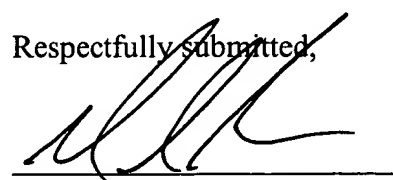
In support of this claim, filed herewith are certified copies of said foreign applications.

Date: July 6, 2001

SHAW PITTMAN LLP
1650 Tysons Boulevard
McLean, VA 22102
Tel: (703) 770-7606

Respectfully submitted,

By:


Michael D. Bednarek
Reg. No. 32,329

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 3月31日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-096814

出 願 人

Applicant (s):

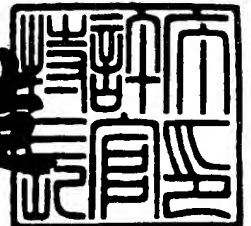
京セラコミュニケーションシステム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年12月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 KYC009

【提出日】 平成12年 3月31日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 15/00

【発明者】

【住所又は居所】 京都府京都市山科区東野北井ノ上町5番地の22 京セラコミュニケーションシステム株式会社内

【氏名】 徳丸 浩

【発明者】

【住所又は居所】 東京都世田谷区玉川台2-14-9 京セラコミュニケーションシステム株式会社 東京支社内

【氏名】 吉田 洋

【特許出願人】

【識別番号】 596100812

【氏名又は名称】 京セラコミュニケーションシステム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100092956

【弁理士】

【氏名又は名称】 古谷 栄男

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100101018

【弁理士】

【氏名又は名称】 松下 正

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100101546

【弁理士】

【氏名又は名称】 眞島 宏明

【電話番号】 06-6368-2160

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004891

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 コンテンツ提供システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

異なる種類の端末装置からのアクセスを受けて、コンテンツ提供サーバからコンテンツを送信するコンテンツ提供システムであって、

コンテンツ提供サーバにコンテンツを記録しておき、コンテンツを要求してきた端末装置の種類を判別するとともに、記録していたコンテンツに基づいて端末装置にコンテンツを提供する処理を行う際に、前記判別された端末装置の種類に応じて、前記コンテンツ提供処理の内容を変えることを特徴とするコンテンツ提供システム。

【請求項 2】

異なる表示用言語を用いて表示を行う端末装置からのアクセスを受けるコンテンツサーバ装置であって、

基準言語データによって記述されたコンテンツを記録するコンテンツ記録手段と、

アクセスしてきた端末装置の種類を判別する端末判別手段と、

端末判別手段によって判別された端末装置の種類に応じて、コンテンツ記録手段に記録されたコンテンツを読み出して、当該端末装置に適した表示用言語に変換して端末装置に送信する言語変換送出手段と、

を備えたコンテンツサーバ装置。

【請求項 3】

請求項 2 のコンテンツサーバ装置において、

前記端末判別手段は、端末装置から送られてくる H T T P ヘッダに基づいて端末装置の種類を判別することを特徴とするもの。

【請求項 4】

請求項 2 のコンテンツサーバ装置において、

前記端末判別手段は、端末装置がアクセスした際の I P アドレスに基づいて端末装置の種類を判別することを特徴とするもの。

【請求項 5】

請求項 2～4 のいずれかのコンテンツサーバ装置において、

前記基準言語データは、表示に必要な情報を、表示内容を示す表示内容記述データと表示形態を示す表示形態記述データとに分離した上、少なくとも表示内容記述データと必要な表示形態記述データとを備えて構成されていることを特徴とするコンテンツサーバ装置。

【請求項 6】

請求項 5 のコンテンツサーバ装置において、

前記表示形態記述データは、表示内容記述データに記述したそれぞれの表示内容に対応付けて、当該それぞれの表示内容の表示形態を示す記述を含んでいることを特徴とするもの。

【請求項 7】

請求項 6 のコンテンツサーバ装置において、

前記表示形態を示す記述には、予め定められた表示形態であることを示す省略記述が含まれていることを特徴とするもの。

【請求項 8】

異なる種類の端末装置からのアクセスを受けて、コンテンツを送信するコンテンツ提供方法であって、

コンテンツを記録しておき、

コンテンツを要求してきた端末装置の種類を判別するとともに、

記録していたコンテンツに基づいて端末装置にコンテンツを提供する処理を行う際に、前記判別された端末装置の種類に応じて、前記コンテンツ提供処理の内容を変えること

を特徴とするコンテンツ提供方法。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の技術分野】

この発明は、異なる表示フォーマットを有するコンピュータや携帯電話等に対しても、適切なコンテンツを提供することのできるサーバ装置に関するものである

る。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】

図1に、従来のコンテンツ提供システムを示す。各種端末2、4、6、8、10は、インターネット12を介して、各種サーバ14、16、18、20、22にアクセスすることができる。

【0003】

しかしながら、ブラウザを用いてアクセスするパーソナルコンピュータ2は、HTML言語で記述されたサーバ14からのデータでなければ、正しい表示を得ることができない。これは、他のサーバ16、18、20、22における記述言語が異なっているためである。同様に、i-mode（商標）端末4においては、C-HTMLサーバ16にアクセスしなければ正しい表示を得ることができない。さらに、WAP（商標）端末6においてはHDMLサーバ18に、PHS端末8においてはPHS用サーバ20に、パソコン通信端末10においてはパソコン通信サーバ22に、それぞれ、アクセスしなければ正しい表示を得ることができない。

【0004】

したがって、ユーザは、自分の使用する機器の種類に応じて、同じコンテンツにアクセスする場合であっても、アクセス先のサーバを変えなければならない。また、所望のコンテンツが異なる言語形式でのみ提供されていた場合には、そのコンテンツを閲覧できないという問題も生じる。

【0005】

一方、コンテンツを提供する側にとっては、多くのユーザに閲覧可能とするためには、異なる言語でコンテンツを用意し、サーバを設置しなければならない。したがって、コンテンツの作成、保守、変更が煩雑であるという問題があった。

【0006】

この発明は上記のような問題点に鑑みて、それぞれの端末の種類ごとにサーバを設けなくとも、各端末に適したコンテンツを提供することのできるコンテンツサーバを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段および発明の効果】

(1)この発明のコンテンツ提供システムは、異なる種類の端末装置からのアクセスを受けて、コンテンツ提供サーバからコンテンツを送信するコンテンツ提供システムであって、コンテンツ提供サーバにコンテンツを記録しておき、コンテンツを要求してきた端末装置の種類を判別するとともに、記録していたコンテンツに基づいて端末装置にコンテンツを提供する処理を行う際に、前記判別された端末装置の種類に応じて、前記コンテンツ提供処理の内容を変えることを特徴としている。

【0008】

したがって、端末装置の種類に応じて、適切なコンテンツを提供することができる。

【0009】

(2)この発明のコンテンツサーバ装置は、異なる表示用言語を用いて表示を行う端末装置からのアクセスを受けるコンテンツサーバ装置であって、基準言語データによって記述されたコンテンツを記録するコンテンツ記録手段と、アクセスしてきた端末装置の種類を判別する端末判別手段と、端末判別手段によって判別された端末装置の種類に応じて、コンテンツ記録手段に記録されたコンテンツを読み出して、当該端末装置に適した表示用言語に変換して端末装置に送信する言語変換送出手段とを備えている。

【0010】

したがって、コンテンツサーバ装置には基準言語データによるコンテンツを用意しておくだけで、異なる種類の端末に対して、適切に表示がなされるコンテンツを提供することができる。このため、コンテンツ作成者の負担が軽減されるとともに、ユーザにとっても、端末装置の種類ごとにアクセスするコンテンツサーバを変える必要がない。

【0011】

(3)この発明のコンテンツサーバ装置は、端末判別手段が、端末装置から送られてくるHTTPヘッダに基づいて端末装置の種類を判別することを特徴としている。

【 0 0 1 2 】

HTTPヘッダは、端末装置が用いているプロトコルを示しているので、正確に端末装置の表示用言語を把握することができ、異なる種類の端末装置に対して適切な変換処理を行うことができる。

【 0 0 1 3 】

(4)この発明のコンテンツサーバ装置は、端末判別手段が、端末装置がアクセスした際のIPアドレスに基づいて端末装置の種類を判別することを特徴としている。

【 0 0 1 4 】

端末装置の種類を決定する通信事業者ごとにIPアドレスの割当が異なっているので、正確に端末装置の種類を把握することができる。したがって、異なる種類の端末装置に対して適切な変換処理を行うことができる。

【 0 0 1 5 】

(5)この発明のコンテンツサーバ装置は、基準言語データが、表示に必要な情報を、表示内容を示す表示内容記述データと表示形態を示す表示形態記述データとに分離した上、少なくとも表示内容記述データと必要な表示形態記述データとを備えて構成されていることを特徴としている。

【 0 0 1 6 】

基準言語データを、表示内容を示す表示内容記述と表示形態を示す表示形態記述とに分離した上、少なくとも表示内容記述データと必要な表示形態記述データとを備えて構成しているので、基準言語からの変換が迅速である。

【 0 0 1 7 】

(6)この発明のコンテンツサーバ装置は、表示形態記述データが、表示内容記述データに記述したそれぞれの表示内容に対応付けて、当該それぞれの表示内容の表示形態を示す記述を含んでいることを特徴としている。

【 0 0 1 8 】

したがって、それぞれの表示内容ごとの表示形態を失うことなく変換を行うことができ、正確な表示を実現できる。

【 0 0 1 9 】

(7)この発明のコンテンツサーバ装置は、表示形態を示す記述には、予め定められた表示形態であることを示す省略記述が含まれていることを特徴としている。

【 0 0 2 0 】

したがって、よく用いられる表示形態の記述を簡略化することができ、基準言語データの構成を簡素にすることができる。

【 0 0 2 1 】

(8)この発明のコンテンツ提供方法は、異なる種類の端末装置からのアクセスを受けて、コンテンツを送信するコンテンツ提供方法であって、コンテンツを記録しておき、コンテンツを要求してきた端末装置の種類を判別するとともに、記録していたコンテンツに基づいて端末装置にコンテンツを提供する処理を行う際に、前記判別された端末装置の種類に応じて、前記コンテンツ提供処理の内容を変えることを特徴としている。

【 0 0 2 2 】

したがって、端末装置の種類に応じて、適切なコンテンツを提供することができる。

【 0 0 2 3 】

この発明において、「異なる種類の端末」とは、表示用言語等のコンテンツに対する処理の仕方が異なる端末をいい、ハードウェアが異なる場合だけでなく、ソフトウェアが異なる場合も含む概念である。

【 0 0 2 4 】

「表示内容記述データ」とは、主として表示する文字・絵などを示すデータまたは当該データのファイル名等から構成されるデータをいう。実施形態においては、本体部分のデータがこれに該当する。

【 0 0 2 5 】

「表示形態記述データ」とは、主として表示をどのように行うのかを示すデータをいう。実施形態においては、スタイルシートがこれに該当する。

【 0 0 2 6 】

「端末判別手段」とは、何らかの方法で端末の種類を判断する手段をいう。たとえば、HTTPヘッダやIPアドレスに基づいて判断したり、回線接続に用い

るラインが異なることによって判断したりするものを含む概念である。さらに、端末装置からの端末の種類を示す情報を受けて、これに基づいて端末の種類を判断するものも含む概念である。

【 0 0 2 7 】

【発明の実施の形態】

【 0 0 2 8 】

1. コンテンツ提供システム

この発明の一実施形態によるコンテンツ提供システムを図 2 a に示す。インターネット 1 2 には、コンテンツサーバ 3 0 が接続されている。また、種類の異なる端末機器 1、2、4、6、8、1 0 が、インターネット 1 2 に接続可能である。

【 0 0 2 9 】

パーソナルコンピュータ 1 は、email 形式にて（つまり、SMTP/POP3 プロトコルにて）、プロトコル変換装置 4 0 を介して、コンテンツサーバ 3 0 にアクセス可能である。パーソナルコンピュータ 2 は、ブラウザによって（つまり http プロトコルにて）、コンテンツサーバ 3 0 にアクセス可能である。携帯電話 4、6、8 は、プロトコル変換装置 4 2、4 4 を介して、それぞれ、i-mode 形式、wap 形式、メール形式にて、コンテンツサーバ 3 0 にアクセス可能である。パーソナルコンピュータ 1 0 は、プロトコル変換装置 4 6 を介して、コンテンツサーバ 3 0 にアクセス可能である。

【 0 0 3 0 】

コンテンツサーバ 3 0 は、端末装置の種類を判別する端末判別手段 3 3 と、判別した端末装置の種類に対応して、コンテンツ提供処理の内容を変える端末対応処理手段 3 9 とを備えている。この実施形態では、端末対応処理手段 3 9 は、基準言語にて記述されたコンテンツを記録したコンテンツ記録手段 3 7 と、端末編別手段 3 3 の判別結果を受けて、コンテンツ記録 3 7 に記録されたコンテンツを、端末装置に適した表示言語に変換して送出する言語変換送出手段 3 5 とを備え

ている。

【 0 0 3 1 】

言語変換送出手段 3 5 は、リアルタイムに言語変換を行いながら、端末装置に向けて送信する。

【 0 0 3 2 】

図 2 b に、コンテンツサーバ 3 0 のハードウェア構成をブロック図にて示したシステム構成を示す。コンテンツサーバ 3 0 は、インターネット 1 2 に接続するための通信アダプタ 3 2、CPU 3 4、メモリ 3 6、ハードディスク 3 8 を備えている。ハードディスク 3 8 には、オペレーティングシステム（UNIX など）、端末種別判定プログラム、変換プログラムなどが格納されている。さらに、基準言語データによって記述されたコンテンツが記録されている。端末種別判定プログラムは、オペレーティングシステムと共同して、アクセスしてきた端末の種類を判断する処理を行う。変換プログラムは、オペレーティングシステムと共同して、基準言語データを、各端末機器用の表示用言語に変換する処理を行う。

【 0 0 3 3 】

2. 基準言語データの構造

(1) 全体構成

この実施形態においては、ハードディスク 3 8 に記録されたコンテンツは、基準言語データによって記述されている。この基準言語データのデータ構造を、図 3 に示す。基準言語データは、表示形態を示すスタイルシート（表示形態記述データ）と、表示内容を示す本体（表示内容記述データ）を備えている。スタイルシートは、表示色、文字の大きさ、表示フォーマット等を記述した部分である。本体は、表示内容テキストを記述した部分である。ただし、スタイルシートは、必ずしも記述しなくてよい。スタイルシートがない場合には、標準的な表示であることを意味する。

【 0 0 3 4 】

なお、この実施形態においては、本体部分は、変換先の表示用言語に拘わらず共通であるが、スタイルシートは、変換先の表示用言語に固有としている。した

がって、HTMLおよびHDMLの何れの場合においても、標準以外の表示形態としたい場合には、HTML、HDMLのそれぞれについてのスタイルシートを記述しておく必要がある。

【0035】

したがって、HTMLだけのスタイルシートが用意されている場合、変換の際、HDMLに対しては、標準の表示形態が採用される。

【0036】

なお、他の実施形態においては、スタイルシートも、変換先の表示用言語に拘わらず共通にしてもよい。

【0037】

(2) 本体部分

図4に、本体部分の記述構造を示す。本体部分は、タグ（“<”と“>”に囲まれた部分）とテキスト（タグ以外の部分）とから構成されている。また、タグは、図5に示すように、“<”で始まり、タグ名（英字列：必須）、アトリビュートがこれに続き、“>”で終了する。アトリビュートは、アトリビュート名（英数字列）、“=”、アトリビュート値（任意の文字列）によって構成される。なお、アトリビュートはなくてもよい。

【0038】

また、Aタグ（<Aで始まるタグ）とPタグ（<Pで始まるタグ）は、後続するテキストを伴い、それぞれ、</P>で括られる。逆に言えば、基準言語データにおいて、テキストが現れるのは、AタグまたはPタグの直後のみである。

【0039】

図6に、基準言語データの本体部分の例を示す。この例では、“メニューを選んでください” “メール” “掲示板” という3つのテキストが含まれている。3行目は、“SRC=”以下で、表示するイメージデータのファイル名が記述されている。また、4行目、5行目では、“HREF=”以下で、リンク先が記述されている。

【0040】

(3)スタイルシート

図 7 に、図 6 の本体に対応する HTML 用のスタイルシートの例を示す。第 2 行目の、“\$”と“\$”に囲まれた部分の“K 1. NAME”によって、この行の記述が、図 6 の何れの行の表示形態を表しているかを示している。K 1 がタグ名を示している。したがって、図 6 の第 1 行目に対応する。スタイルシートの記述の解釈については、後述する。

【 0 0 4 1 】

3. コンテンツサーバ 3 0 の処理

(1)全体的処理

図 8 に、コンテンツサーバ 3 0 の処理の全体的なフローチャートを示す。まず、端末装置からアクセスがあると（ステップ S 1）、当該端末の種類を判断する（ステップ S 2）。さらに、このようにして判断した端末の種類に基づき、要求されたコンテンツの基準言語データを、当該端末において用いられている表示用言語データに変換する（ステップ S 3）。変換により得たコンテンツの表示用言語データを、当該端末に向けて送信する（ステップ S 4）。以後は、端末からの要求に応じて、ステップ S 3、S 4 を繰り返す。

【 0 0 4 2 】

以上のようにして、コンテンツサーバ 3 0 には、基準言語によって記述したコンテンツを用意しておくだけで、何れの種類の端末装置からの要求に対しても、当該端末に適した形式のデータを送り返すことができる。

【 0 0 4 3 】

(2)端末種別判定プログラム（図 8、ステップ S 2）

図 9 に、端末の種類を判断するプログラムのフローチャートを示す。端末からのアクセスがあると、HTTP ヘッダが、端末から送信されてくる。この HTTP ヘッダ中に、“X_JPHONEMSNAME”が記述されていれば、端末装置は、MML 言語を用いた端末であると判断する（ステップ S 1 1）。“X_UP_SUBN02”が記述されていれば、端末装置は、WAP 言語を用いた端末であると判断する（ステップ S 1

2)。“USER_AGENT”の記述が、“DoCoMo”で始まっているならば、端末装置は、C-H T M L 言語を用いた端末であると判断する(ステップ S 1 3)。“USER_AGENT”の記述が、“PDXGW”で始まっているならば、端末装置は、PmailDX (商標) 言語を用いた端末であると判断する(ステップ S 1 4)。

【 0 0 4 4 】

上記の何れにも該当しない場合には、パーソナルコンピュータであると判断する(ステップ S 1 5)。さらに、“USER_AGENT”の記述に基づいて、パソコン通信であるか、emailであるか、H T M L であるかを判断する。以上のようにして判断した結果は、メモリ 3 6 (図 2 b 参照)に記憶される。

【 0 0 4 5 】

(3)変換プログラム(図 8、ステップ S 3)

次に、基準言語データによるコンテンツを、端末装置の表示用言語データに変換する処理を、図 1 0 に示す。まず、ステップ S 4 1 において、コンテンツの基準言語データを、ツリー構造化データに変換する。次に、このツリー構造化データに基づいて、所望の表示用言語データに変換する(ステップ S 4 2)。

【 0 0 4 6 】

まず、図 7 に示すスタイシート、図 6 に示す本体によって構成される基準言語によるコンテンツに対し、ブラウザを使用したパーソナルコンピュータ 2 が閲覧要求を行った場合について説明する。この場合、端末装置の表示用言語は、H T M L であると判断できる(図 9 参照)。したがって、最終的には、H T M L 言語に変換を行う必要がある。

【 0 0 4 7 】

まず、基準言語データをツリー構造化データに変換する処理(ステップ S 4 1)について説明する。図 6 に示す本体部分の、各行のタグを、図 1 1 に示すようなデータ構造に解析する。なお、次のタグ番号、子どものタグ番号については、以下で説明する。

【 0 0 4 8 】

図 6 の本体部分は、図 1 2 に示すようなツリー構造として表現することができ

る。図において、()内の数字は、タグ番号を示している。この図では、K S P というデータ全体が、P タグ、I M G タグ、A タグ、A タグによって構成されていることが示されている。

【 0 0 4 9 】

図 1 2 のような関係を、図 1 3 のように表現することもできる。つまり、親から見て子どもを指すリンクと、その子供から見て同じ親の次の子ども（弟）を指すリンクを用いて表現することができる。この実施形態では、図 1 3 に示す方法で、関係を示している。したがって、図 6 の本体部分は、図 1 4、図 1 5 に示すようなツリー構造化データに変換される。

【 0 0 5 0 】

以上のようにして、ツリー構造化データを生成すると、次に、このツリー構造化データを用いて表示用言語データに変換する（図 1 0、ステップ S 4 2）。この変換処理のフローチャートを図 1 6、図 1 9 に示す。図 1 6 は、変換先の表示用言語についてのスタイルシートが存在する場合の処理を示し、図 1 9 は、変換先の表示用言語についてのスタイルシートが存在する場合の処理を示している。

【 0 0 5 1 】

ここで想定しているのは、HTML 言語への変換であり、HTML については、スタイルシートが存在するので、スタイルシートに示された表示形態にしたがった変換を行う。したがって、図 1 6 に示すような、基準言語データを HTML データに変換する変換処理プログラムが実行される。

【 0 0 5 2 】

まず、図 8 のスタイルシートの文字を順次読みだし、文字” \$ ”に至るまでの内容を、出力ファイル（HTML）にコピーする（ステップ S 2 1）。図 7 の場合は、” <HTML>（改行）<HEAD><TITLE> ”までが、出力ファイルにコピーされる。次に、スタイルシートの終わり（EOF）であるか否かを判断する（ステップ S 2 2）。EOFであれば、処理を終了する。

【 0 0 5 3 】

EOFでなければ、スタイルシートにおいて、\$ に続く識別子（英数字の列）を読み出す。これは、基準言語データのタグに付けられたキー名であるから、変数

KEYとしてメモリ36に記憶する（ステップS24）。

【0054】

次に、変数KEYで示されるキーを持つタグを、図14、図15のツリー構造化データから探し、そのタグ番号を変数TAGに記憶する（ステップS24）。ここでは、タグ番号1がキー名K1を持つため、TAG=1となる。

【0055】

次に、スタイルシート上の次の文字がピリオドがどうかを調べ（ステップS25）、ピリオドであればこれを読み飛ばした後、後続する識別子（英数字列）を読み出して、変数ATTRに代入する（ステップS26）。その後、タグ番号TAGで示すタグからアトリビュート名ATTRを持つアトリビュートの値を出力ファイルにコピーする（ステップS27）。ここでは、ピリオドに後続する識別子がNAMEであるため、ATTR=NAMEとなり、タグ1のアトリビュートNAMEの値、つまり”KSPサンプル”をファイルに出力する。

【0056】

ステップS25において、次の文字がピリオドでない場合には、TAGで示すタグからテキスト欄を出力ファイルにコピーする（ステップS30）。

【0057】

次に、スタイルシート上の次の文字が”\$”であるかどうかを調べ（ステップS28）、”\$”であれば読み飛ばして（ステップS29）、ステップS21に戻る。”\$”でなければ、エラーであるとして終了する。

【0058】

以上のようにして変換されたHTMLデータを図17に示す。また、このHTMLデータが、パーソナルコンピュータ2に送信されて表示された場合の画面を、図18に示す。3行目のタグにより、壁紙50が表示されている。また、4行目、6行目、7行目によってメニューが表示されている。6、7行目に対応して、”メール””掲示板”は、リンクが貼られていることが画面上もアンダーラインにより示されている。4行目により、画像52が表示されている。

【0059】

以上のように、スタイルシートを用いることにより、純正なHTMLデータを

得ることができる。また、表の作成、中寄せ、右寄せ、ブリンク（点滅）などの装飾や、バナー広告、アイコンなども表示することができる。

【0060】

なお、上記では、基準言語データからHTMLデータへの変換について示したが、その他の表示用言語への変換のためのプログラムもサーバに記録されており、端末装置の種類にあわせて必要な変換プログラムが自動的に選択されて用いられる。

【0061】

次に、WAP端末（携帯電話）6から、コンテンツの閲覧要求があった場合について説明する。この場合も、端末の種類判別は、図9に示す処理が行われる。この処理により、HDMLデータに変換すべきであることがわかる。

【0062】

なお、図10の基準言語データをツリー構造化データに変換するところまでは、先の説明と同じである。しかし、図6、図7に示す基準言語データには、HDML用のスタイルシートは存在しないので、図19に示すプログラムが実行される。

【0063】

まず、図14、図15のツリー構造化データの先頭タグのタグ番号を取得し、変数TOPに代入する（ステップE1）。ここでは、先頭要素はタグ番号1であるから、TOP=1となる。次に、TOPの指すタグ種を取り出し、変数KINDに代入する（ステップE2）。ここでは、KIND="KSP"となる。

【0064】

次に、KINDの内容により処理を分岐する（ステップE3）。ここでは、KIND="KSP"であるからステップE4へ進む。

【0065】

ステップE4では、HDMLのヘッダ情報として"<HDML VERSION=3.0><改行><DISPLY>"をファイルに出力する。次に、タグ番号1の子供のタグ番号を、ツリーの先頭とし、図19の処理を再帰的に呼び出す（ステップE5）。ここでは、ステップE1において、TOP=2となり、ステップE2において、KIND="

P”となる。

【0066】

したがって、ステップE3から、ステップE24、E25に進む。ステップE25では、タグ番号=TOPであるタグの、テキスト欄の内容をそのまま出力する。ここでは、“メニューを選んでください”をファイルに出力する。続いて、改行のため“
”を出力する（ステップE26）。

【0067】

次に、ステップE27に進み、TOPの“次のタグ番号”の欄の値をTOPに代入する。ここでは、TOP=3となる。続いて、TOP=0か否かを判断する（ステップE28）。ここでは、0でないので、ステップE2に戻る。

【0068】

次に、ステップE3において、TOPの指すタグ種を判断する。ここでは、KIND=“IMG”であるから、ステップE7からE8へ進む。ステップE8においては、画像を示すHDMLタグである“<IMG SRC=”を出力する（ステップE8）。次に、TOPが指すタグのSRCアトリビュートにより画像ファイル名を得て、変数FILEに代入する（ステップE9）。ここでは、FILE=“ICON. JPG”となる。次に、変数FILEの指すファイル名の拡張子を調べ、“BMP”でなければ、ステップE11以下を実行する（ステップE10）。BMPであれば、ステップE13に進む。ここでは、拡張子は、JPEG画像を示す“JPG”であって“BMP”ではないので、ステップE11以下を実行することとなる。

【0069】

ステップE11において、ICON. JPG画像をモノクロBMP形式の画像に変換する。次に、変数FILEの拡張子を“JPG”から“BMP”に変換する（ステップE12）。したがって、FILE=“ICON. BMP”となる。

【0070】

次に、変数FILEの指す文字列を出力する（ステップE13）。続いて、画像タグの終了タグおよび改行タグ“></BR>”を出力する（ステップE14）。

【0071】

次に、TOP 値の更新を行う（ステップ E 2 7）。ここでは、TOP = 4 となる。ステップ E 2 8 を経て、E 2 において、KIND = A となる。したがって、ステップ E 3、E 7、E 1 5 を経て、ステップ E 1 6 に進む。

【0 0 7 2】

ステップ E 1 6 においては、ハイパーリンクを意味する HDML タグ "A TASK=GO DEST=" をファイルに出力する（ステップ E 1 6）。次に、TOP の指すタグの HREF アトリビュートを調べ、そのアトリビュート値を出力する（ステップ E 1 7）。ここでは、"MAIL.KSP" である。

【0 0 7 3】

次に、"ACCESSKEY=" を出力した後（ステップ E 1 8）、変数 AK の値を 1 増加する（ステップ E 2 0）。ここで、ACCESSKEY とは、携帯電話の数字キーにより、素早く操作を行うためのものであり、1 以上の一連番号を用いるのが通例である。

【0 0 7 4】

その後、文字列 ">" を出力することにより A タグを終了させ（ステップ E 2 1）、変数 TOP の指すタグのテキスト欄を出力する（ステップ E 2 2）。ここでは、テキスト欄は "メール 2" である。その後、文字列 "
" により A タグを閉じる（ステップ E 2 3）。

【0 0 7 5】

以上のようにして、変換結果としての HDML データが出力ファイルとして得られる。このように、その表示用言語のスタイルシートが基準言語データにない場合には、標準的な表示形態として変換が行われる。変換結果である HDML データを図 2 0 に示す。また、この HDML データを、WAP 端末 6 において表示した例を図 2 1 に示す。

【0 0 7 6】

なお、上記では、基準言語データから HDML データへの変換について示したが、その他の表示用言語への変換のためのプログラムもサーバに記録されており、端末装置の種類にあわせて必要な変換プログラムが自動的に選択されて用いられる。

【 0 0 7 7 】

また、その他の表示用言語への変換のためのプログラムも、変換の基本的な処理方法は上記と同様である。ただし、emailプロトコル、パソコン通信の場合には、端末側において、リンク先を要求する機能が備わっていない。したがって、端末側の現在の状態と、選択された後の次のリンク先（遷移先）をコンテンツサーバ30側で管理する必要がある。そこで、基準言語データにリンク先が記述されている場合には、表示用言語データを生成するだけでなく、サーバ側において端末側の状態を管理し、次の飛び先を決定できるためのデータを生成し、サーバ側のメモリに保持する必要がある。

【 0 0 7 8 】

この実施形態においては、端末の要求がある都度、リアルタイムに変換処理を行っている。したがって、コンテンツの変更があった場合でも、これが直ちに端末装置への表示に反映される。

【 0 0 7 9 】

この実施形態では、基準言語データで記述したコンテンツデータを記録しておき、これを端末装置の種類に合致した表示用言語データに変換するようにしている。したがって、基準言語によるコンテンツを用意すれば、各種端末装置に対してコンテンツを閲覧させることができる。

【 0 0 8 0 】

4. 他の実施形態

(1)図24に、他の実施形態によるコンテンツ提供システムを示す。この実施形態におけるコンテンツサーバ30では、端末対応処理手段39が、言語選択送出手段41、コンテンツ記録手段37を備えている点において異なる。コンテンツ記録手段37には、基準言語によるコンテンツではなく、各端末用の表示用言語にてそれぞれのコンテンツが予め生成されて記録されている。言語選択送出手段41は、端末判別手段33から端末の種類を受け取り、端末の種類に合致した表示用言語で記述されたコンテンツを送信する。

【 0 0 8 1 】

この実施形態によれば、表示用言語ごとにコンテンツサーバを設ける必要がなく、システムを効率よく運用することができる。

【 0 0 8 2 】

(2)図 2 5 に、さらに他の実施形態によるコンテンツ提供システムを示す。この実施形態では、コンテンツサーバ 3 0 の端末対応処理手段 3 9 が、コンテンツ分割手段 4 3、コンテンツ記録手段 3 7 を備えている点において異なる。

【 0 0 8 3 】

端末の種類に応じて、一度に端末側で記憶できるコンテンツの容量が異なる。したがって、記憶容量の小さい端末に対しては、コンテンツを分割して送信する必要が生じる。この実施形態のコンテンツ分割手段 4 3 は、端末判別手段 3 3 から端末の種類を受け取り、端末の種類に合致したサイズにコンテンツを分割してコンテンツを送信する。

【 0 0 8 4 】

したがって、コンテンツを作成する際に、端末ごとの記憶容量の制限を意識する必要がなくなる。また、図 2 5 の実施形態は、図 2 a、図 2 4 の実施形態と組み合わせて運用することができる。

【 0 0 8 5 】

(3)上記実施形態では、コンテンツサーバ 3 0 において変換処理を行うようにしている。しかし、図 2 2 に示すように、基準言語データによるコンテンツを記録したコンテンツサーバ 1 2 0 と、変換プログラムを記録して変換処理を行う変換サーバ 1 1 0 とを分離して設けてもよい。

【 0 0 8 6 】

分離することにより、負荷分散を図るため（あるいは 2 重化を行うため）に、変換サーバ 1 1 0 だけを 2 つ設ければよく、同じコンテンツを 2 つ設ける必要がなくなる。これにより、コンテンツの保守が容易となる。

【 0 0 8 7 】

(4)上記実施形態では、リアルタイムに変換処理を行うようにしているが、変換プログラムを用いて予め変換しておいて、提供するようにしてもよい。また、図 1 4、図 1 5 に示すようなツリー構造化データに変換した状態でサーバに記録し

ておき、このデータに基づいて、リアルタイムに変換処理を行うようにしてもよい。

【 0 0 8 8 】

(5)上記実施形態では、H T T P ヘッダによって、端末装置の（ハードウェアおよびソフトウェアの的な）種類を判別するようにしている。しかし、I P アドレスによって、端末装置の種類を判断するようにしてもよい。

【 0 0 8 9 】

(6)上記実施形態では、基準言語を記録しておき、これを表示用言語に変換するようにしている。しかし、図 2 3 に示すように、第 1 の変換プログラムを記録した第 1 の変換装置 1 4 0 によって各種の表示用言語を基準言語に変換し、第 2 の変換プログラムを記録した第 2 の変換装置 1 3 0 によって、この基準言語を所望の表示用言語に変換するようにしてもよい。このようにすれば、任意の表示用言語で生成したコンテンツを、各種の端末装置において閲覧させることが可能となる。

【 0 0 9 0 】

また、変換装置 1 3 0、1 4 0 のいずれも、リアルタイムに変換を行ってもよいし、予め変換をしておいて記憶するものであってもよい。

【 0 0 9 1 】

(7)上記実施形態では、出力の形態として表示を行う場合について説明しているが、音声出力等の出力についても同様に適用することができる。

【 0 0 9 2 】

(8)上記実施形態における「端末対応処理手段」とは、端末の種類に応じて、コンテンツ提供処理の内容を変化させるような手段をいう。たとえば、上記実施形態で説明したように、コンテンツの記述言語やサイズ等を変えて端末装置に送信する手段をいう。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

従来のコンテンツ配信システムを示す図である。

【図 2 a】

本発明の一実施形態によるコンテンツ配信システム示す図である。

【図 2 b】

本発明の一実施形態によるコンテンツ配信システム示す図である。

【図 3】

基準言語データの全体的構造を示す図である。

【図 4】

基準言語データの構造を示す図である。

【図 5】

基準言語データのタグの構造を示す図である。

【図 6】

基準言語データの本体部分の例を示す図である。

【図 7】

基準言語データのスタイルシートの例を示す図である。

【図 8】

コンテンツサーバの処理フローチャートを示す図である。

【図 9】

端末の種類を判断するプログラムのフローチャートを示す図である。

【図 1 0】

変換プログラムのフローチャートを示す図である。

【図 1 1】

基準言語データの構造を示す図である。

【図 1 2】

ツリー構造を示す図である。

【図 1 3】

ツリー構造を示す図である。

【図 1 4】

ツリー構造化データを示す図である。

【図 1 5】

ツリー構造化データを示す図である。

【図 1 6】

基準言語から HTML への変換プログラムのフローチャートを示す図である。

【図 1 7】

変換して得られた HTML を示す図である。

【図 1 8】

図 1 7 の HTML によって表示される状態を示す図である。

【図 1 9】

基準言語から HDML への変換プログラムのフローチャートを示す図である。

【図 2 0】

変換して得られた HDML を示す図である。

【図 2 1】

図 2 0 の HDML によって表示される状態を示す図である。

【図 2 2】

他の実施形態によるシステムを示す図である。

【図 2 3】

他の実施形態によるシステムを示す図である。

【図 2 4】

他の実施形態によるコンテンツ提供システムを示す図である。

【図 2 5】

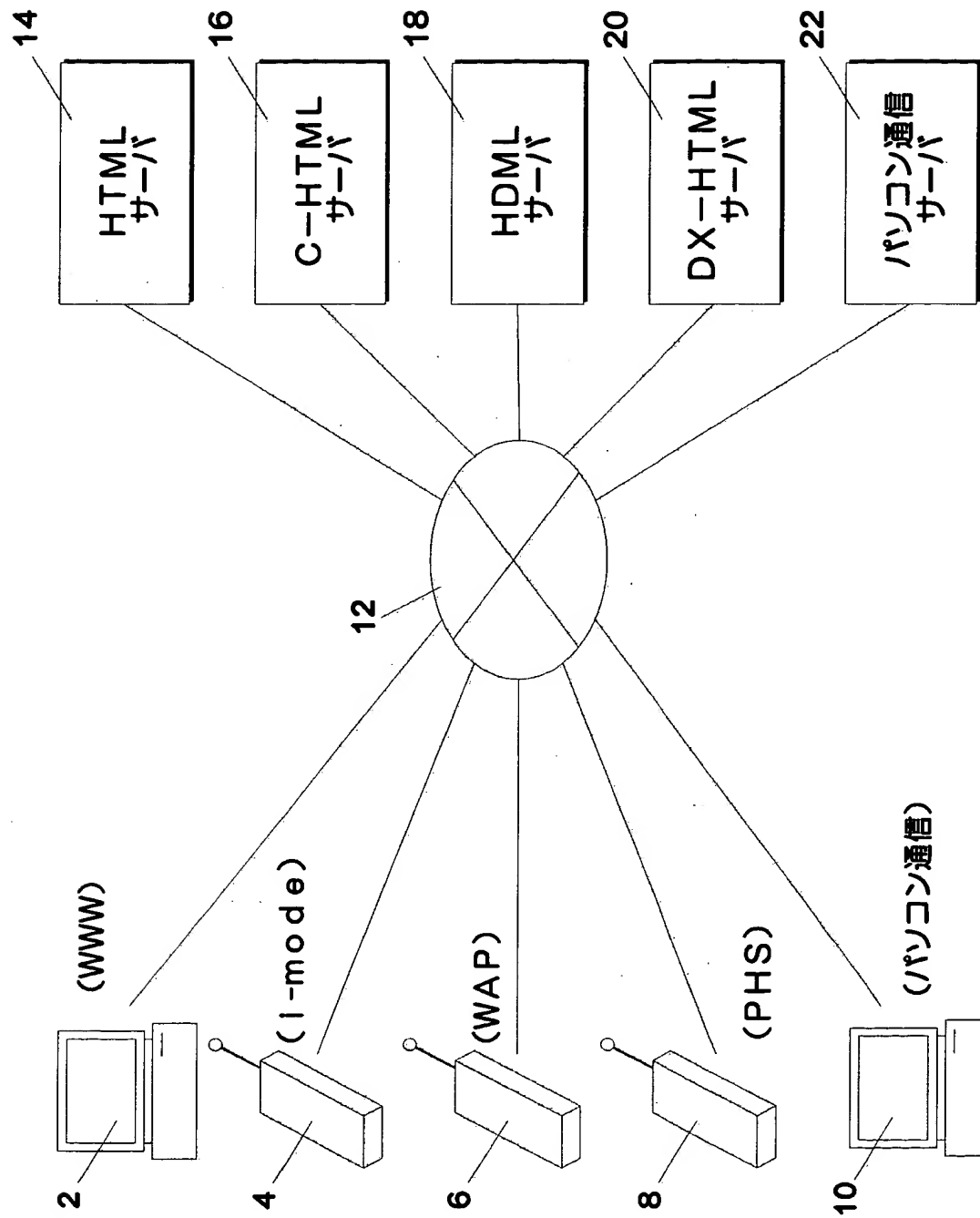
他の実施形態によるコンテンツ提供システムを示す図である。

【符号の説明】

- 1、2、10・・・パーソナルコンピュータ
- 4、6・・・携帯電話
- 8・・・PHS
- 12・・・インターネット
- 30・・・コンテンツサーバ

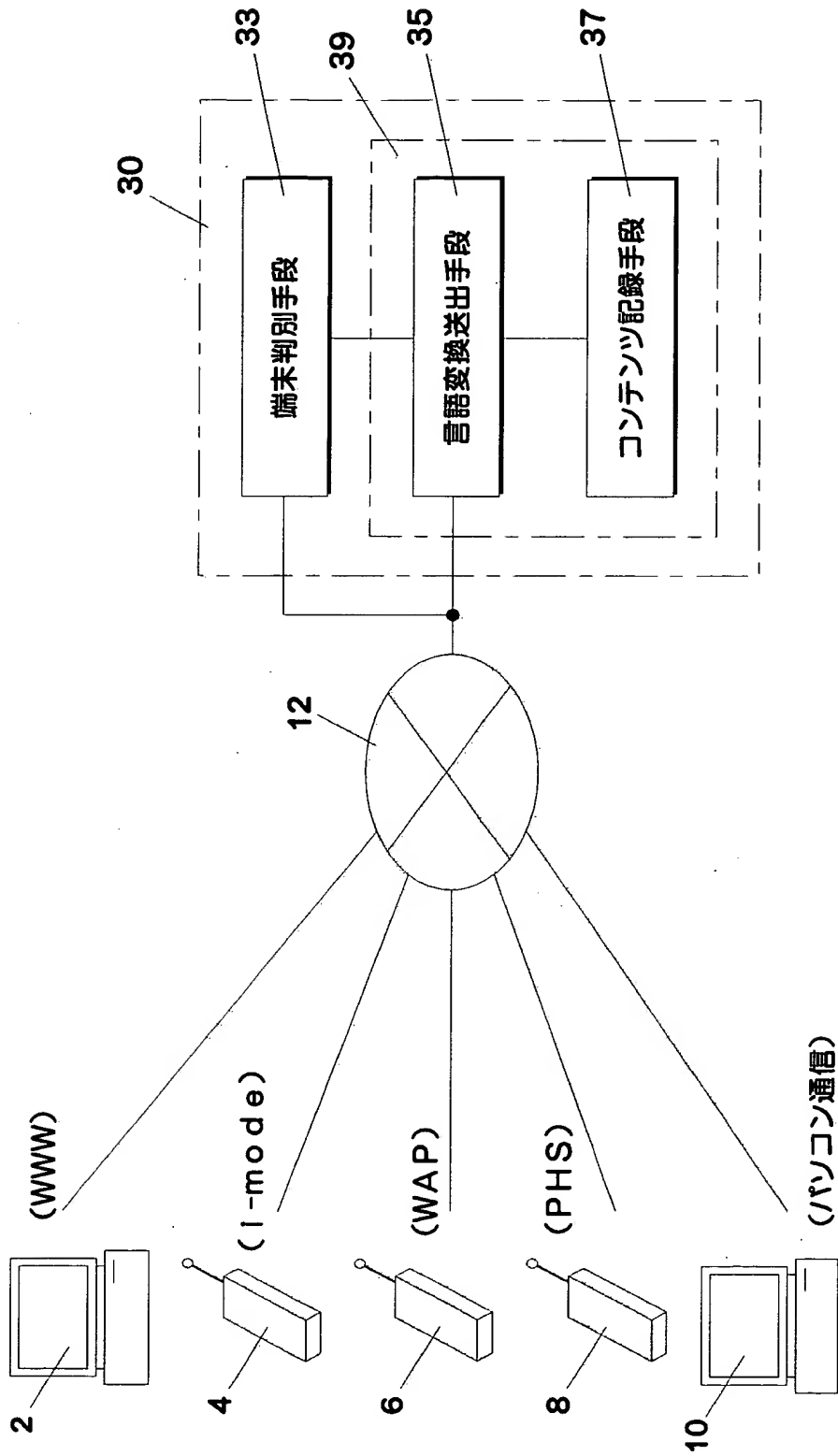
【書類名】 図面

【図 1】



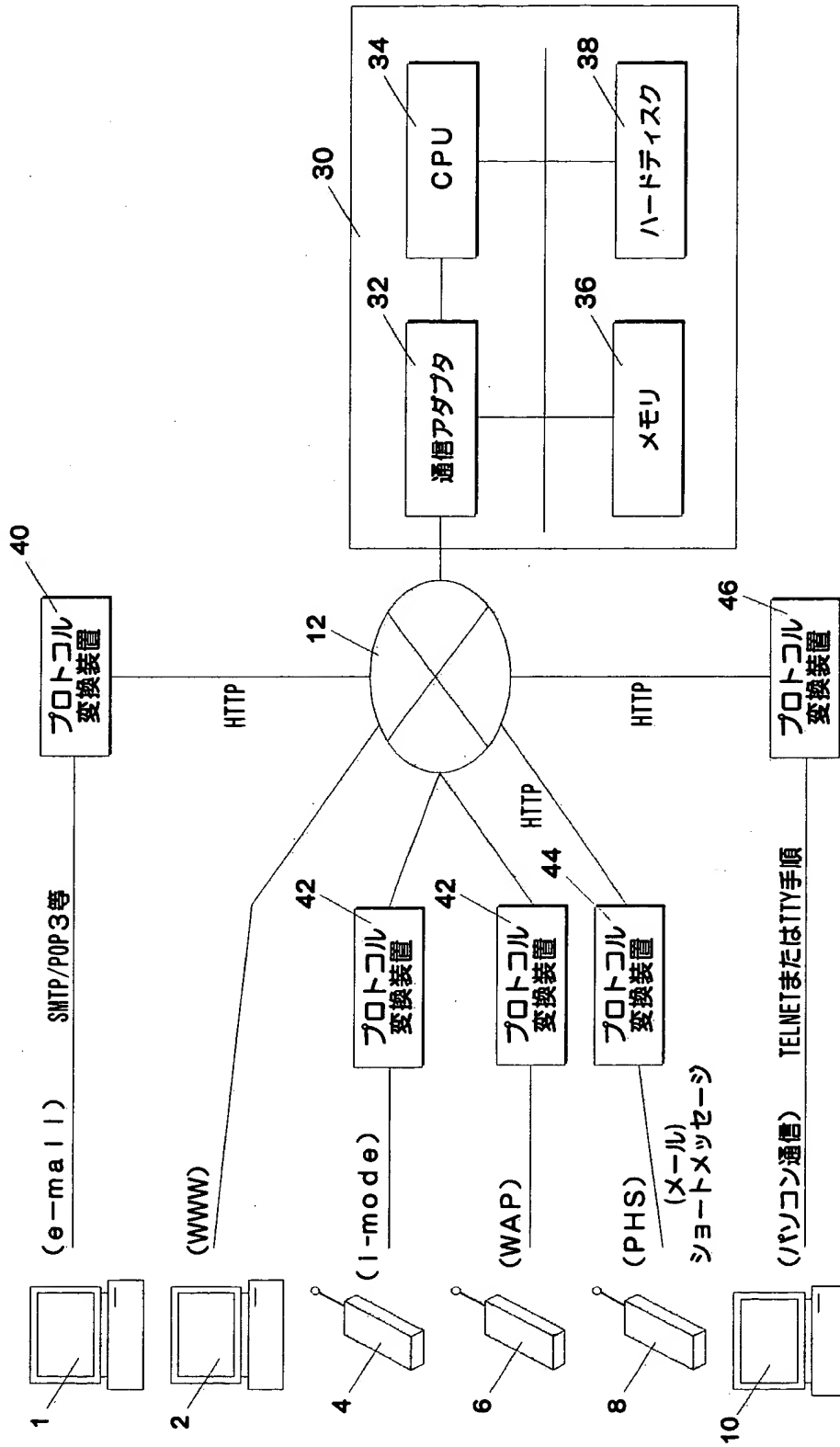
KYC00901

【図 2 a】



KYC00902a

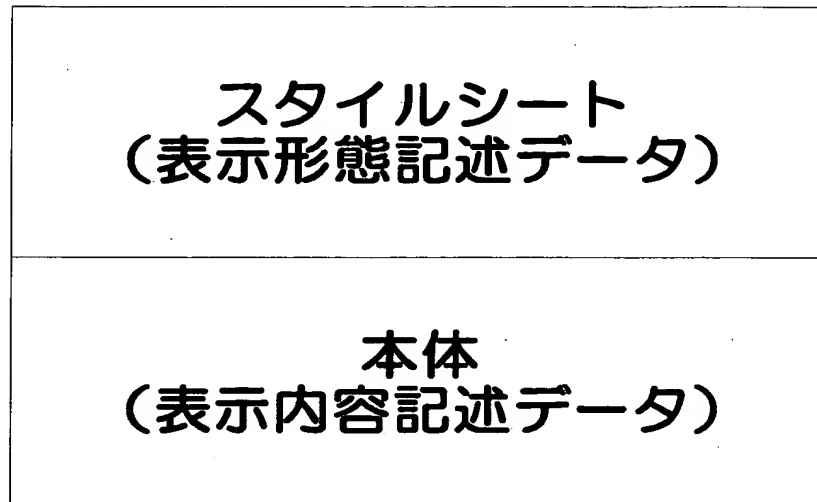
【図 2 b】



KYC00902b

【図 3】

基準言語データの構造



KYC00903

【図4】

タグ1
タグ2
テキスト1
タグ3
タグ4
テキスト2

KYC00904

【図5】

<タグ名 アトリビュート名=アトリビュート値 アトリビュート名=アトリビュート値…>

KYC00905

【図6】

本 体

```
<KSP KEY=K1 NAME="KSPサンプル">  
<P KEY=R1>メニューを選んでください</P>  
<IMG KEY=R2 SRC=ICOM.JPG>  
<A KEY=R3 HREF=MAIL.KSP>メール</A>  
<A KEY=R4 HREF=BBS.KSP>掲示板</A>  
</KSP>
```

KYC00906

スタイルシート

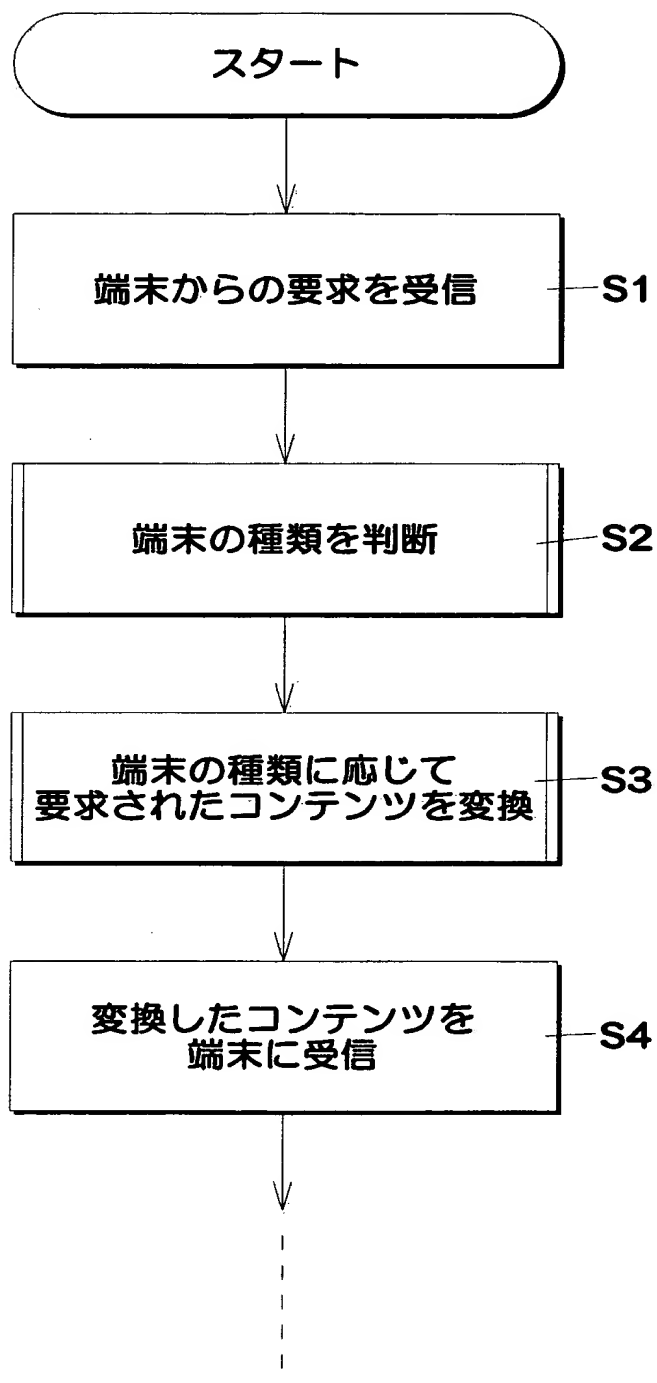
【図7】

```
<HTML>
<HEAD><TITLE>$K1.NAME$</TITLE></HEAD>
<BODY BACKGROUND=bg.gif>
$R1$<BR>
<IMG SRC=$R2.SRC$>
<A HREF=$R3.HREF$>$R3</A>
<A HREF=$R4.HREF$>$R4</A>
</BODY>
</HTML>
```

KYC00907

【図 8】

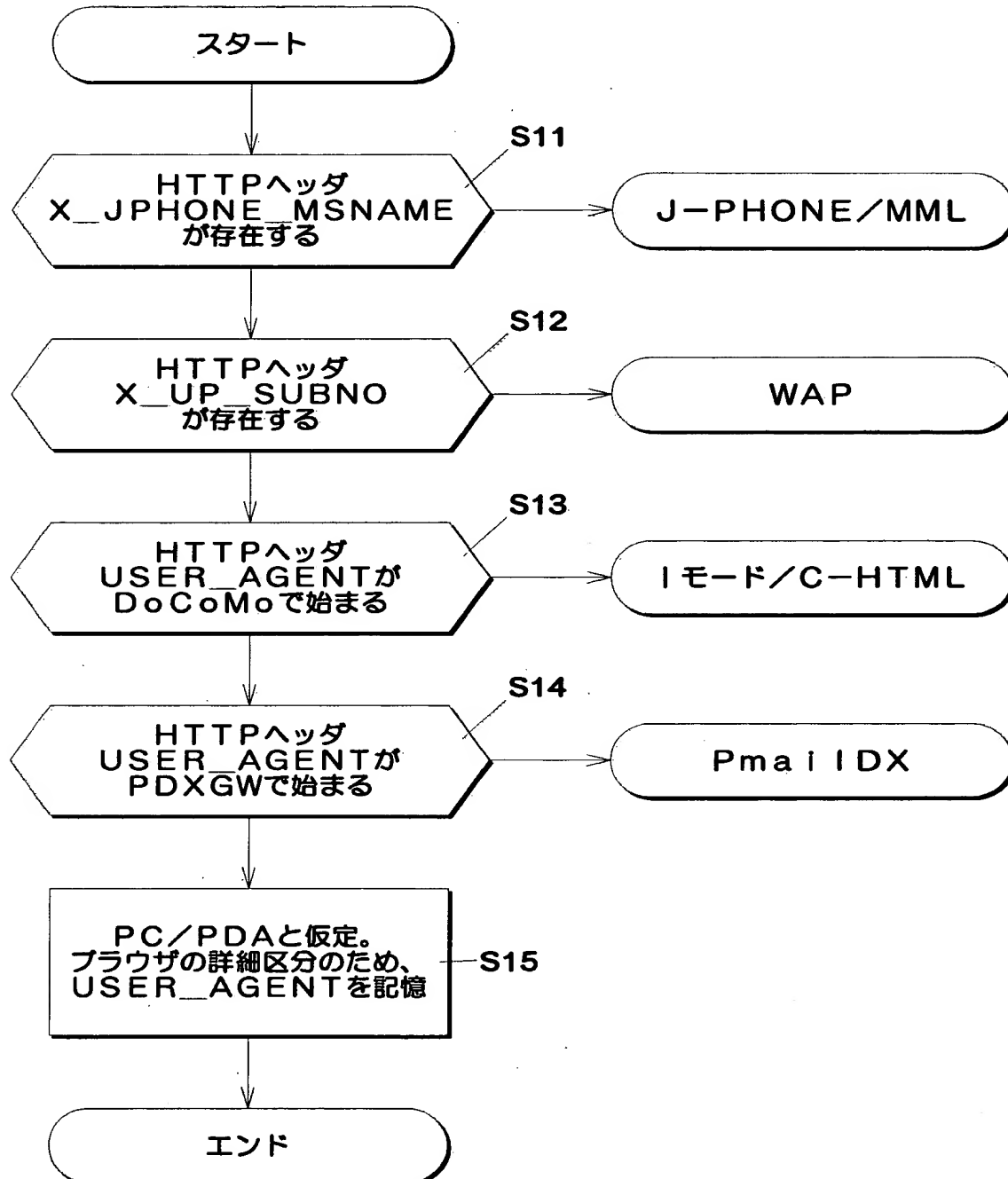
コンテンツサーバの処理フローチャート



KYC00908

【図9】

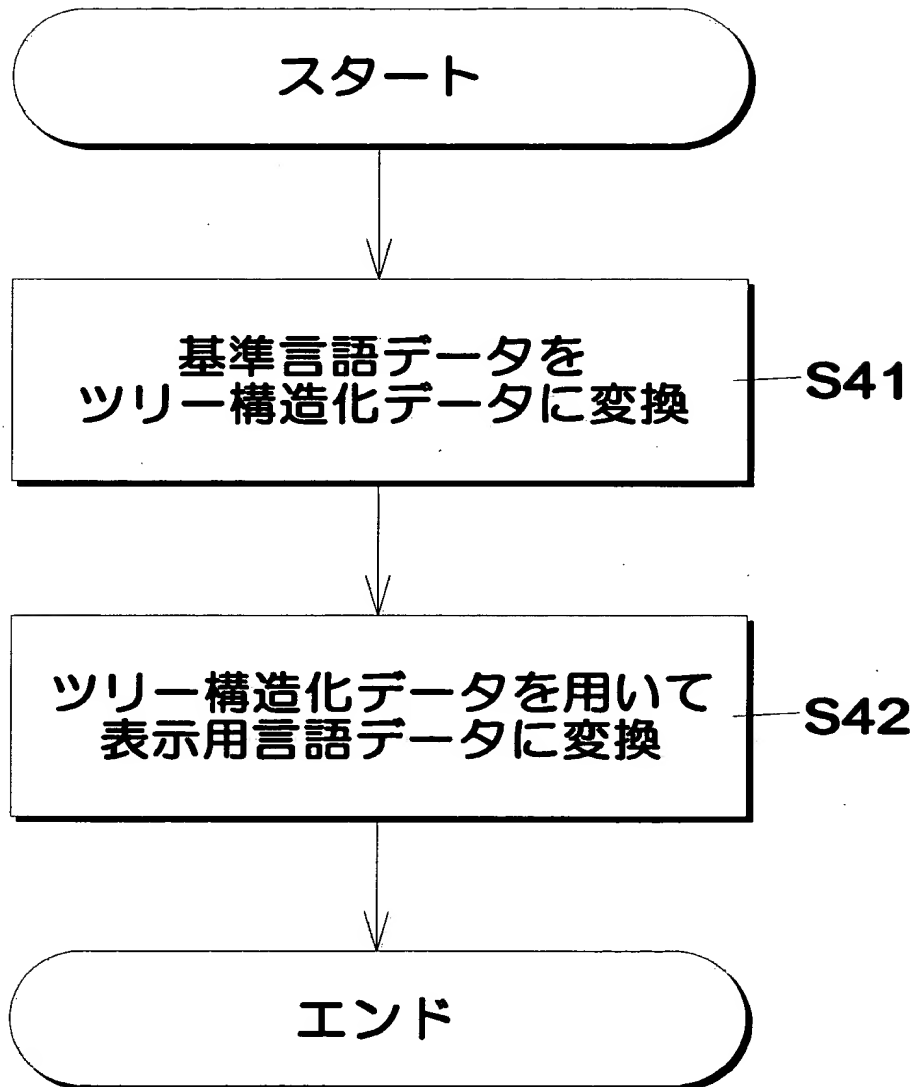
端末種別を判定するアルゴリズム



KYC00909

【図 1 0】

変換プログラム



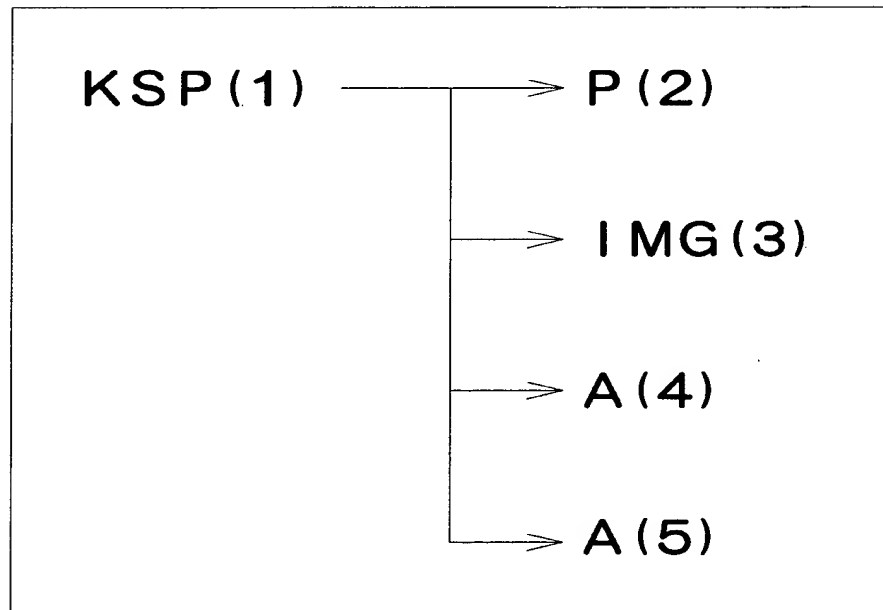
KYC00910

【図 1 1】

タグ番号	
タグ種類	
アトリビュートの個数	
アトリビュート名1	アトリビュート値1
アトリビュート名2	アトリビュート値2
アトリビュート名3	アトリビュート値3
...	...
テキスト (Aタグ、Pタグのみ)	
次のタグ番号	
子供のタグ番号 (KSP, FORM, SELECTタグのみ)	

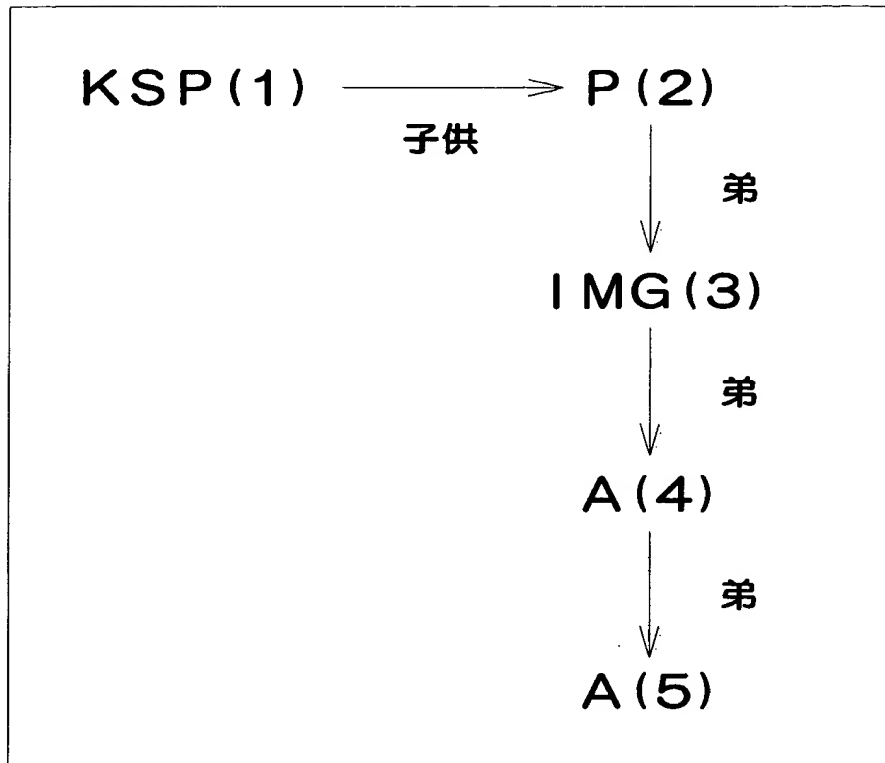
KYC00911

【図 1 2】



KYC00912

【図 1 3】



KYC00913

【図14】

タグ番号	1
タグ種	KSP
アトリビュートの個数	2
アトリビュート名-1	KEY
アトリビュート値-1	K1
アトリビュート名-2	NAME
アトリビュート値-2	KSPサンプル
テキスト	(空)
次のタグ番号	0 (該当するものがない)
子供のタグ番号	2

タグ番号	2
タグ種	P
アトリビュートの個数	1
アトリビュート名-1	KEY
アトリビュート値-1	R1
テキスト	メニューを選んでください
次のタグ番号	3
子供のタグ番号	0 (該当するものがない)

タグ番号	3
タグ種	IMG
アトリビュートの個数	2
アトリビュート名-1	KEY
アトリビュート値-1	R2
アトリビュート名-2	SRC
アトリビュート値-2	ICON. JPG
テキスト	(なし)
次のタグ番号	4
子供のタグ番号	0 (該当するものがない)

タグ番号	4
タグ種	A
アトリビュートの個数	2
アトリビュート名-1	KEY
アトリビュート値-1	R3
アトリビュート名-2	HREF
アトリビュート値-2	MAIL. KSP
テキスト	メール
次のタグ番号	5
子供のタグ番号	0 (該当するものがない)

KYC00914

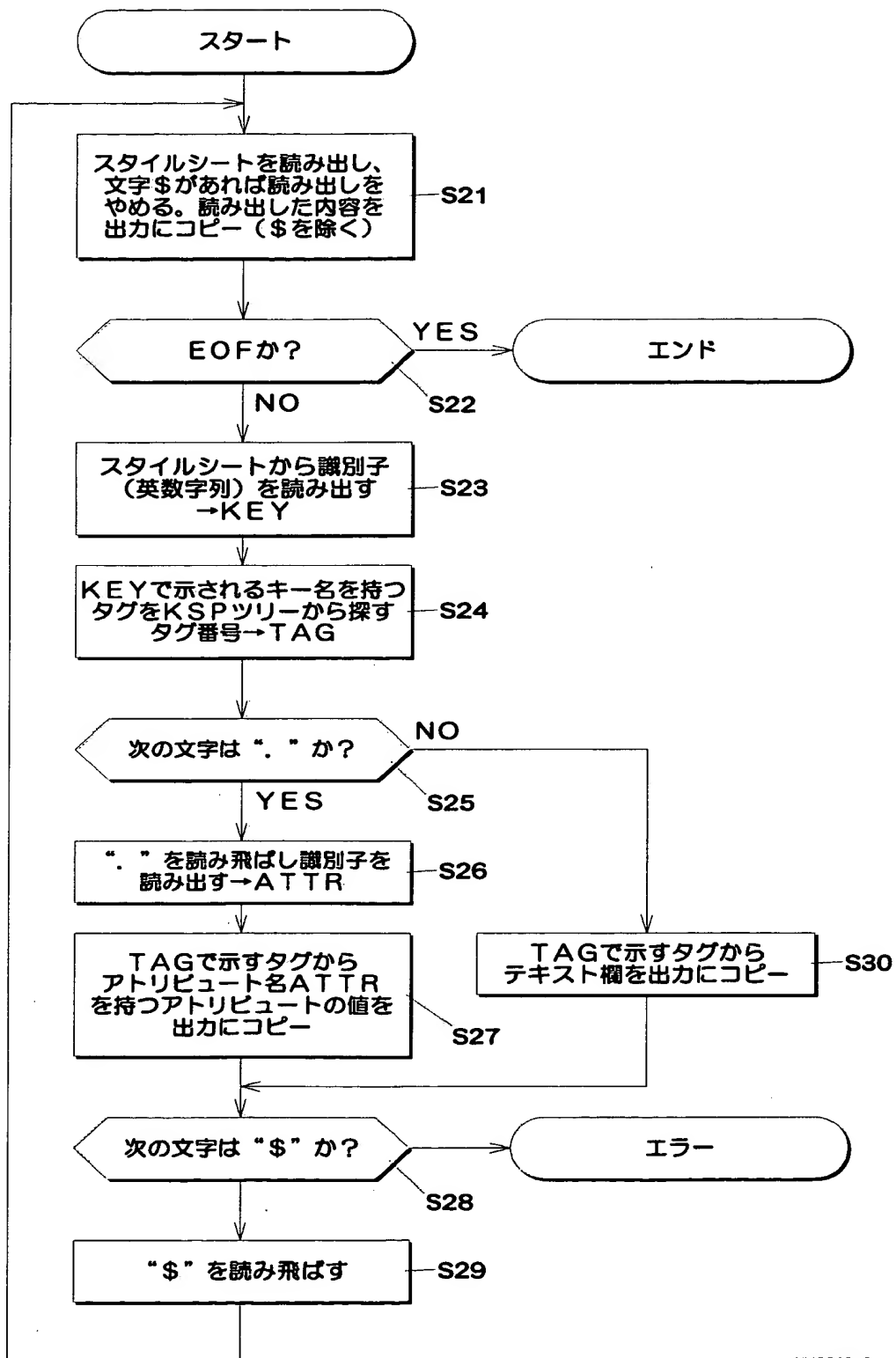
【図 15】

タグ番号	5
タグ種	A
アトリビュートの個数	2
アトリビュート名-1	KEY
アトリビュート値-1	R4
アトリビュート名-2	HREF
アトリビュート値-2	BBS. KSP
テキスト	掲示板
次のタグ番号	0 (該当するものがない)
子供のタグ番号	0 (該当するものがない)

KYC00915

【図 16】

基準言語→HTML 変換アルゴリズム (スタイルシートあり)



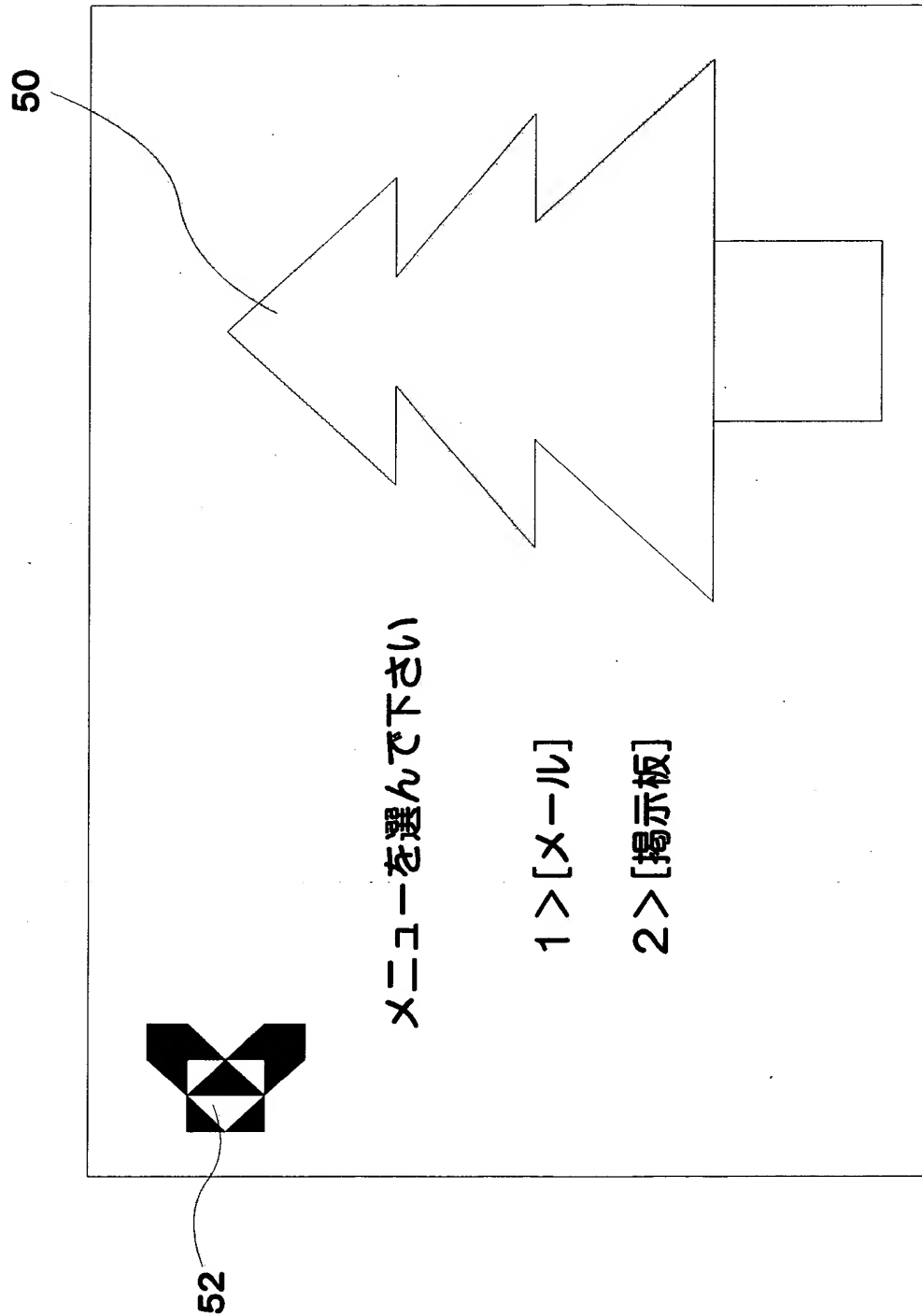
KYC00916

【図17】

```
<HTML>
<HEAD><TITLE>KSP サンプル</TITLE></HEAD>
<BODY BACKGROUND=b.g.gif>
メニューを選んでください<BR>
<IMG SRC=ICOM.JPG>
<A HREF=MAIL.KSP>メール</A>
<A HREF=BBS.KSP>掲示板</A>
</BODY>
</HTML>
```

KYC00917

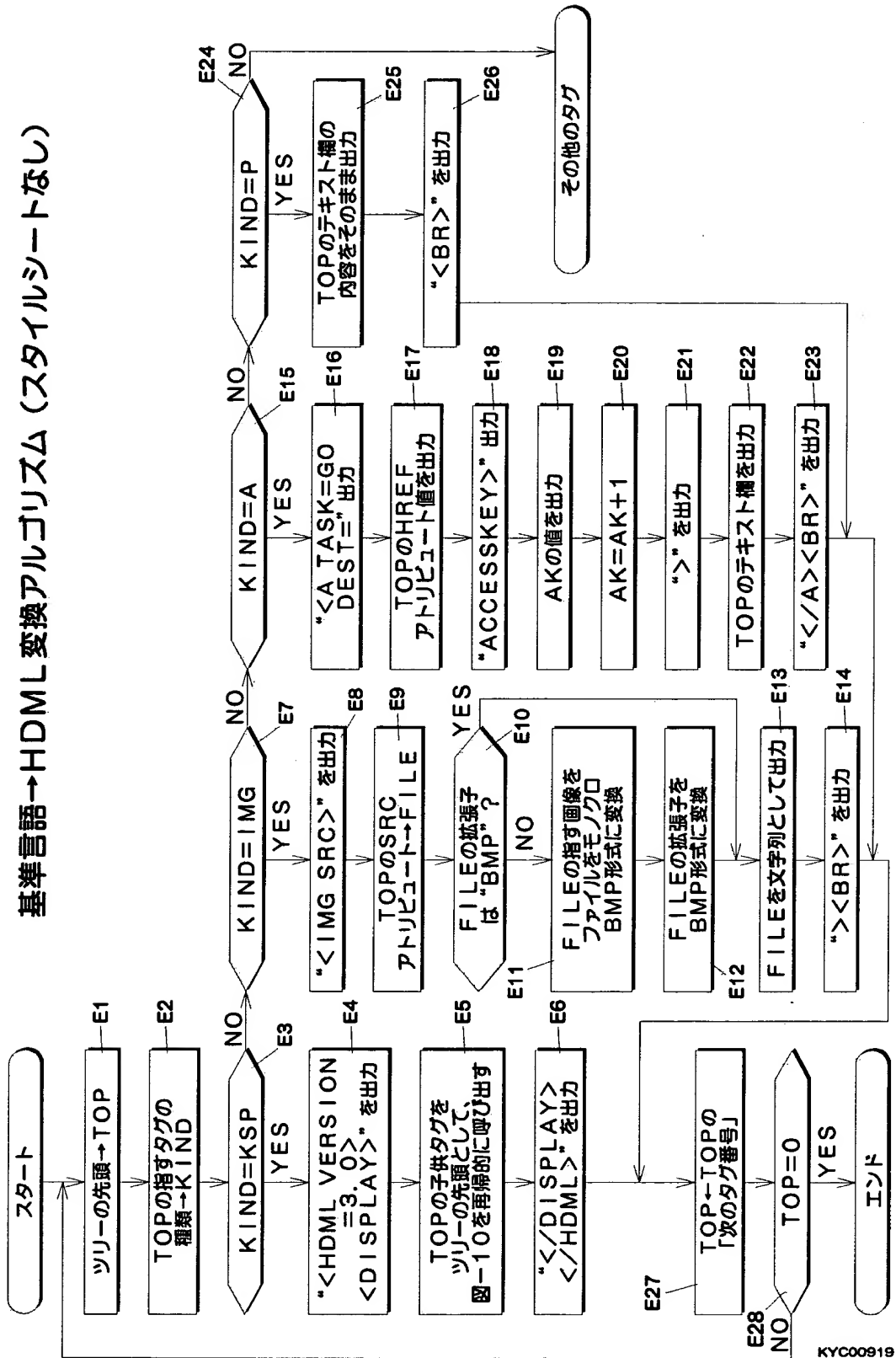
【図 18】



KYC00918

【図 19】

基準言語→HDML変換アルゴリズム（スタイルシートなし）



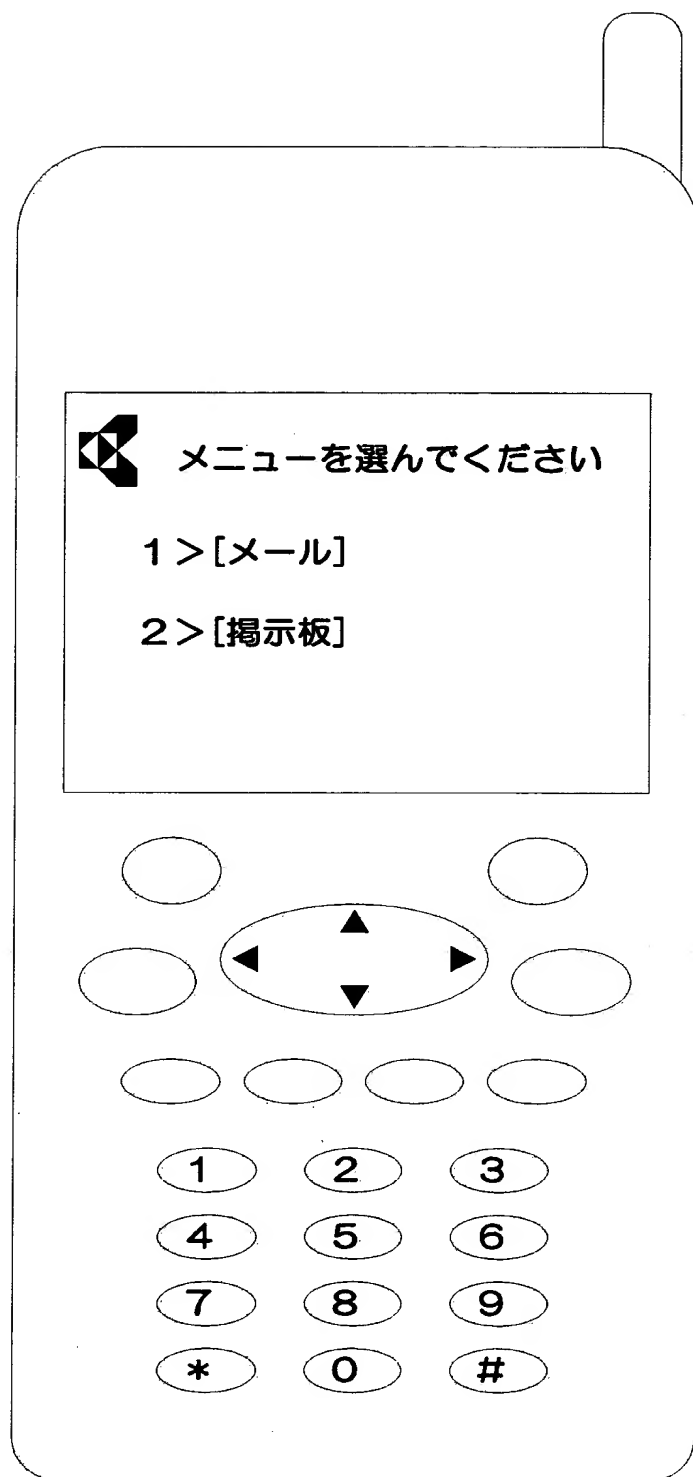
KYC00919

【図 2 0】

```
<HTML VERSION=3.0>  
<DISPLAY>  
メニューを選んでください<BR>  
<IMG SRC=ICOM.BMP><BR>  
<A TASK=GO DEST=MAIL.KSP ACCESSKEY=1>X-ル</A><BR>  
<A TASK=GO DEST=BBS.KSP ACCESSKEY=2>掲示板</A><BR>  
</DISPLAY>  
</HTML>
```

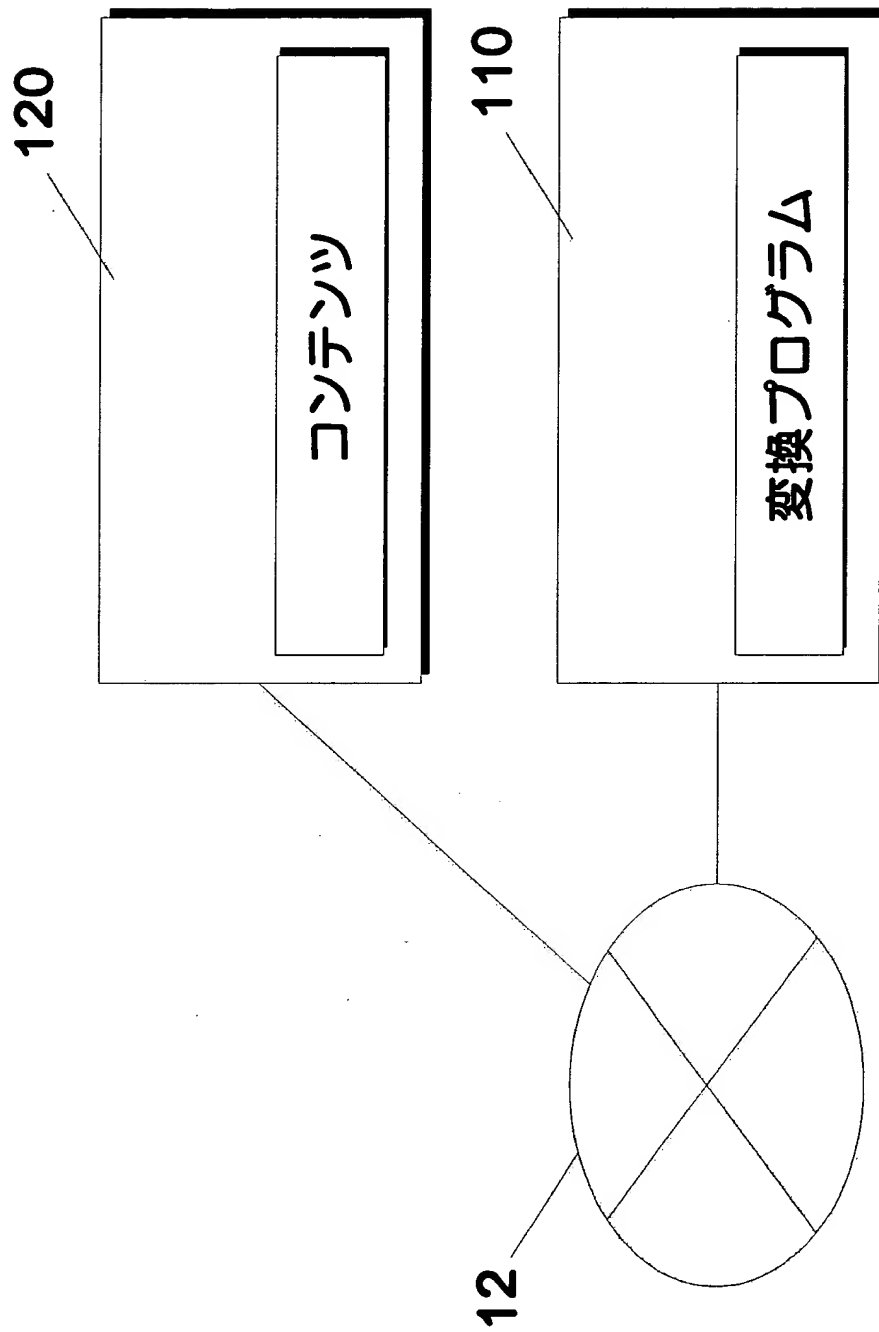
KYC00920

【図 2 1】



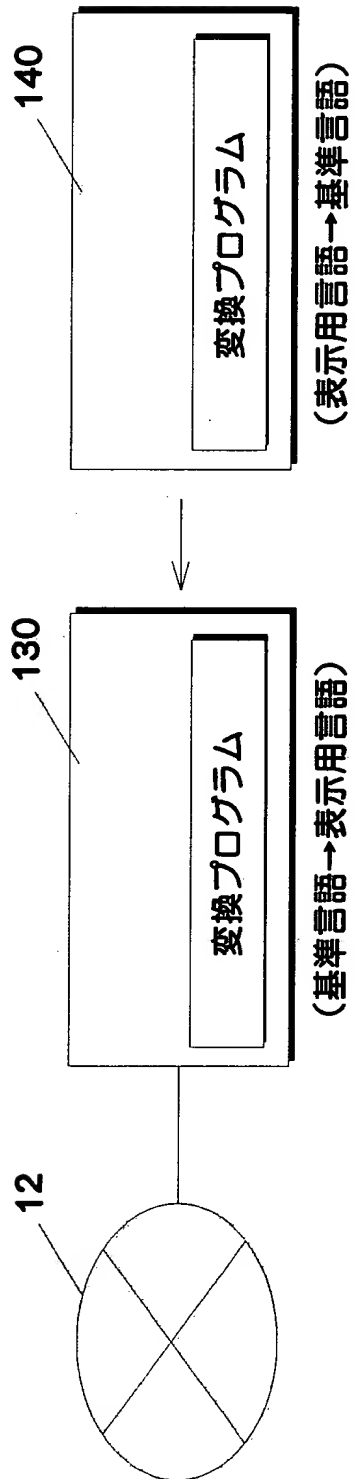
KYC00921

【図22】



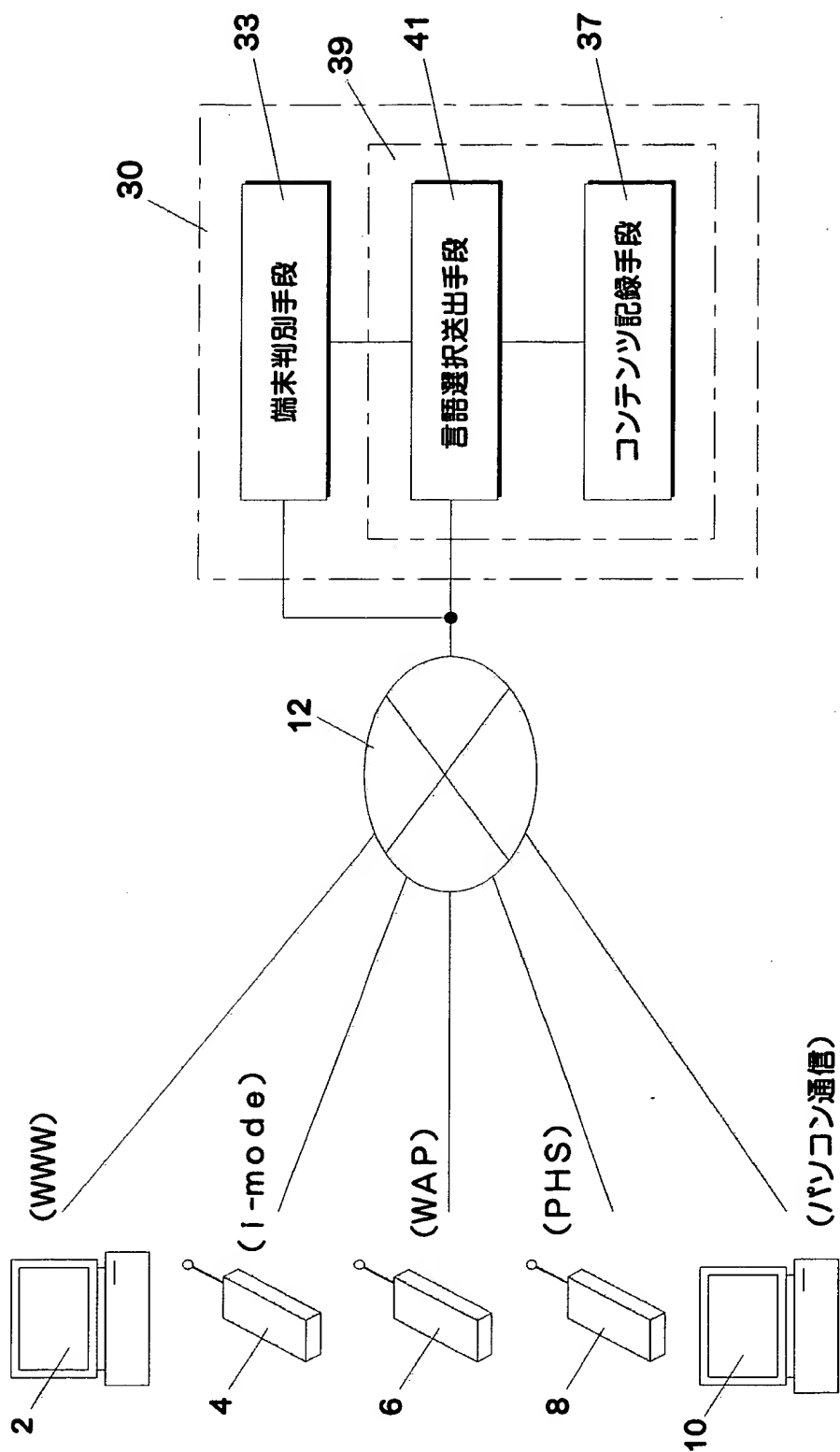
KYC00922

【図 2 3】



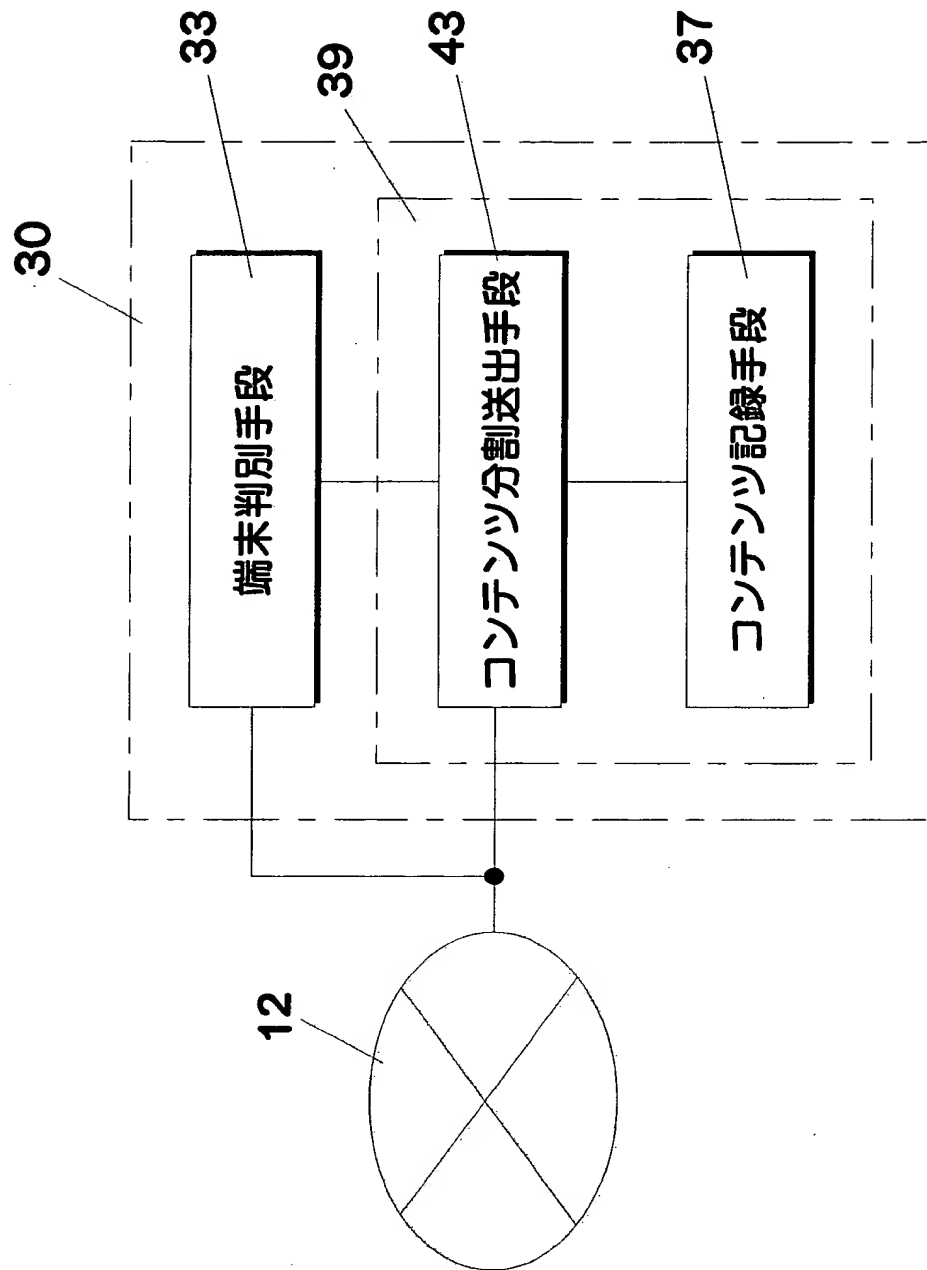
KYC00923

【図 24】



KYC00924

【図 2 5】



KYC00925

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 コンテンツの作成、変更等を容易化できる言語変換システムを提供する。

【解決手段】 コンテンツサーバ 3 0 には、変換の容易な基準言語データにて記述されたコンテンツが記録されている。コンテンツサーバ 3 0 は、アクセスしてきた端末の種類を判断する。要求されたコンテンツを、その端末の種類に合致した表示用言語に、リアルタイムに変更し、端末装置に送信する。端末装置では、この表示用言語データに基づいた表示を行う。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [596100812]

1. 変更年月日 1998年 3月 6日
[変更理由] 住所変更
住 所 京都市山科区東野北井ノ上町5番地の22
氏 名 京セラコミュニケーションシステム株式会社